

# 「主の教えを愛する人」

## 詩編 1編1～3節

聖学院中学校高等学校チャプレン 久保 哲哉

聖学院中学校・高等学校の久保哲哉です。現在は聖学院の中学校と高校でチャプレンをしていますけれども、2020年3月までは聖学院大学内にあるキリスト教センター主事としてボランティア団体や聖歌隊の顧問をしていました。学生の皆さんと共に、光の子どもの家という児童養護施設で奉仕をしたり、岩手県釜石市にボランティア活動にいたり、夏のリゾートでは聖書を学んだり、温泉に入ったり、楽しい思い出がたくさんあります。授業では欧米学科のキリスト教概論も担当しました。よろしくお願いいたします。

今回はシリーズ礼拝ということで「聖書が語る希望」というテーマで奨励を準備しました。ところで、聖学院大学では最近、礼拝で讃美歌を歌っていますでしょうか？

聖学院中高では、コロナの影響で礼拝で讃美歌を歌わない日々が続きましたが、最近は小さな声で丁寧に讃美歌を歌うようにしました。私は讃美歌が好きなので、これをとても嬉しく思っています。なぜ讃美歌が好きなのか。それは、賛美には心を清める力があるからです。アップテンポの曲を聞くと元気が出ます。悲しげな曲を歌うとしみじみます。同じように、聖なる歌を歌うと、神様の力が働いて、心が元気づけられ、聖なる心になることができると信じています。それはなぜかを知るために、今日の聖書箇所を再び読みましょう。

「いかに幸いなことか。(中略)主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。ときが巡り来れば実を結び、葉もしおれることがない(詩編 1編 1～2節)」

とあります。山あり谷あり、苦難の多い人生ですが、主(聖書)の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人は、どんなことがあってもその人は「しおれる」ことがない。だから幸いだというのですね。

聖書の言葉は前向きで力に満ちた言葉が多いので、口ずさむと本当に元気がでるものですが、聖書の言葉を暗唱して昼も夜も口ずさむことは難しいことです。でも、讃美歌なら、馴染みのメロディ・歌詞をいつでも口ずさむことができます。落ち込んだとき、是非、讃美歌を口ずさんでみてください。聖書の言葉が歌われているのでそのメロディと歌詞を味わうことで、心も身体も清められ、元気づけられることになるでしょう。というのも、私自身、讃美歌の歌詞に救われた経験があるのです。それは自分の進路。進むべき道に悩んだときです。皆さんの中にも、大学を卒業したあとの就職のことで悩んでいる人がいることでしょう。

私の場合は大学4年生のときに、自分がどのような仕事に就きたいかということで本当に悩みました。それで、将来のことが全くイメージができないままに、大学の最終学年に来てしまいました。自分は一体何者なのか。自分に向いている仕事は何なのか。自分に向いていない仕事は何か。自分は何に興味があるのか。飽きっぽい性格で、色々なスポーツや趣味を経験しましたが、長続きしたものは教会に通うことだけでした。恥ずかしながら、自分自身と向き合うことをせずに親の敷いたレールの上を20年間生きてきてしまったため、自分がやりたいことがわからなかったのです。だから、皆さん、自分は一体何者なのか。何ができるのか、何ができないのか。私のように、困ってしまわないためにも、しっかりと将来のヴィジョンを見据えて大学生活を送ってもらいたいと心の底から願っています。

こうして、悩みの底に沈んでいると、ある日のことです。そんな私をみて心配した友人が食事に誘ってくれました。

一緒にご飯を食べていると、その先輩に「お前は何がしたいのだ？」と問われました。その問いに対して私は「伝道したい(伝道＝キリスト教を伝えること)」と答えてしまったのです。これは自分でも予想外でした。自分でも理解・把握していないことが、他者から問われることで言語化されることがあるということを知りました。

こうして自分で宣言してしまったものですから、それからさらに悩みました。伝道するためにはまず、牧師になる必要があります。牧師になるためには新しく大学と大学院で4年をかけて神学を学ぶ必要があります。そんなお金はどこにあるのでしょうか。また、当時、「牧師＝聖なる人」と考えていましたが、自分は全く聖なる人間ではないことは明らかです。自分が牧師になる、という姿は全く想像ができませんでした。

そんな時に、クリスチャンの学生の集まりで聖書のメッセージを語ることになり、困り果てました。なぜなら心がウロウロしているときに、聖書の話はできないのです。夜中に悩みながら、1文字も語る言葉が見つからなかったとき。そこで讃美歌の力を借りようと思い、無作為に讃美歌を開くと、讃美歌 291 番が目に入りました。次のような歌詞です。

主にまかせよ、汝が身を、  
主はよろこび たすけまさん。  
しのびて 春を待て、  
雪はとけて 花は咲かん。  
あらしにも やみにも  
ただまかせよ、汝が身を。

これは一体どの聖書箇所を歌っているのだらうと調べますと、次のようにありました。

「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてください(箴言 3 章 5～6 節)」

主なる神によって導かれた人生です。神様が私に牧師になるという思いを抱かせてくださったのなら、えいやっと飛び込めば、必ず私の道筋をまっすぐにしてくださいに違いないと思われ、牧師の道を志すことになりました。この場に立たされているということは、神様によって「道筋をまっすぐに(箴言 3 章 6 節)」された結果となります。それ以来、悩みのとき、辛いとき、意識的にこの讃美歌やゴスペルやこどもさんびかを口ずさむようにしています。

「いかに幸いなことか。主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。とかが巡り来れば実を結び葉もしおれることがない。」

この言葉は真実です。どうか、聖学院生活で、好きな聖句、好きな讃美歌を見つけてみてください。そしてこれを口ずさんでみてください。きっとそれが、皆さんの力になります。

2021年11月11日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖書が語る希望」